

公表

事業所における自己評価結果 (放課後等ディサービス 職員)

事業所名		社会福祉法人 白鷹町社会福祉協議会 児童発達支援センターにこっと		公表日		令和8年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	3	個別に活動する際の個室スペースを確保するため、図書スペースや調子室、会議室等を共用スペースとして活用している。	個別スペースを確保するためにパーティションを活用することも多いが、スペースが不足している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	朝の職員ミーティング時に当日の児童担当を明確にし、児童が安心して生活できる環境づくりに配慮している。	1対1で児童と関わることも多く、職員の余裕がないことがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	生活のスケジュールや約束事を図で示し、視覚支援の手法を用いることで精神的な落ち着きと納得ある生活を保障している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	清掃や整理整頓に心がけ、安全・安心な華僑づくりにより、事故の未然防止にもつながっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	個別スペースには限りがあるため、児童同士が互いに譲り合って納得できる状況の中で活動できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	日常的に保護者とのコミュニケーションを密にし、小さな意見要望にも応えることができるよう努力している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	運営委員会や苦情解決第三者委員会にて、地域の代表者の方より多様なご意見（評価）をいただき、業務改善に取り組んでい		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	研修機会が確保され、疑問にもすぐに対応してもらい、日々の業務に活かされている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	利用保護者と定期的な面談を行い、支援プログラム等を通しての成果と課題を相互に確認している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成しているか。	6	0			
	13	放課後等ディサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0			
	14	放課後等ディサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0			
	16	放課後等ディサービス計画には、放課後等ディサービスガイドラインの「放課後等ディサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	支援開始前の打合せはもちろん、当日の支援内容をチームで共有して業務にあたっている。	子どものお迎えの時間や送迎によって打合せが不十分となることがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1		同上
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	児童の成長の様子（成果・課題）を支援記録に確実に残し、支援の質的向上に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	自己決定の場面を生活全体で多様に取り入れ、自己肯定感や達成・成就感を味わえる支援を意識している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	0	当事業所が児童発達支援センターとしての機能を有していることから、周辺事業所を巻き込んだ研修を充実させている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	日常的に隣接するひがしね保育園園庭で遊ぶことが多く、ルールを守りながら園児と楽しく遊ぶ様子が見られる。	他施設児童との交流や地域との交流活動の場を意図的計画的に仕組み、インクルーシブな環境づくりが課題である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0		兄弟同士の交流する機会は特に設けていないという保護者からの声があった。改善策について今後検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情解決第三者委員会の位置づけを保護者はじめ関係者の知らせ、効果的な委員会の運用に努力している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0		主に連絡帳により日々の支援状況を家庭にお知らせしているが、支援ソフト「ハグ」の導入により情報発信を充実を行いたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報には施錠された書庫に厳格に保管管理している。また管理規則の厳守により、USB等の情報持ち出しを禁止している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	センター周辺をお散歩したり魚つりをしたりする際に、地域の方々には温かく見守っていただいている。	地域住民を招待する等の行事は実施していない。地域に開かれたセンターのあり様をさらに検討する必要がある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	非常時に機能するマニュアルとするために、所内研修にて活用研修に努めている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	同上	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0	保護者との情報共有に努め、事故の未然防止に努めている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	同上	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	作成した安全計画を年度初めに見直し、アップデートされた計画として活用している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	職員の危機管理意識を日頃より高めておくことが大切であり、小さな事案でも報告・共有することを職員間で確認している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	所内研修にて定期的に研修に努め、虐待、不適切な指導の絶無に取り組んでいる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	原則、身体拘束は虐待行為と隣合わせであることを共有している。また、身体拘束に至った事案は開所以来ない。		